

教育時報通巻八〇〇号の発行に寄せて

県教育委員会教育長

竹 井 千 庫



この五月号が、昭和二十四年九月の創刊以来、通巻八〇〇号の記念すべきものとなります。まさに「継続は力なり」であり、長年、教育時報を支えていただいた方々への感謝の気持ちでいっぱいです。

実は、私、平成四年度から五年度まで時報の編集を担当しており、最初に手がけたのは四月号（通巻五一二号）で特集は「学校週五日制」でした。学校から教育委員会事務局に入ってすぐの仕事で、右も左も分からない手探り状態で編集をしたのですが、教育庁各課や学校等々、様々な場に出掛けるの取材は、教育委員会の仕事を幅広く学ぶことができ、その後の仕事の進め方にも良い影響を与えてくれたものと感謝しています。

今から振り返っても本当に大変だったなあという思いの一方、楽しかった思い出もあります。中・四国での家族旅行コースを紹介した「近県の夏休み体験ゾーン」（平成五年七月号）や、退職後の生き生きとした生活を取り上げた「さわやかセカンドライフ」（平成四年九月号）は、自ら特集を組んだもので、その分、思い入れもあります。

また、平成四年のバルセロナオリンピック、マラソン競技で銀メダルを獲得した有森裕子選手が、県庁に表敬訪問された様子を、報道記者やカメラマンに混じって撮影し、写真コーナーにカラーで掲載したのも懐かしい思い出です。

以上、担当者としての思い出を綴ってみましたが、読者の立場からは、堅い内容が多く、なかなか手に取りにくいという印象は否めません。しかし、その時々々の教育課題への対応や本県の文化、史跡の紹介、教職員の先進事例の報告など、仕事を進める上で、大いに役立つ内容となつていきます。ぜひ、手にとつて読んでいただきたいと思います。

古来、「教育は人なり」と言われます。子どもたちの成長を支援する立場にある教職員には、日々研鑽に努めていただきたいと思います。その一助に、教育時報がなるものと確信しております。

九〇〇号への新たな出発に当たり、教育時報の果たすべき使命を胸に、より教育現場に役立つ内容となるよう、更なる創意工夫に努めてまいります。

